



「木もれびの森の野鳥たち(5)」

冬鳥が、やって来た！

北の国や標高の高い山から、越冬のため冬鳥たちが木もれびの森にもやって来ました。

・10月24日以降、ジョウビタキが畑の杭やテレビアンテナなどに止まって、朝から「ヒツヒツヒツ、カッカカッカ」と鳴いてなわばり宣言。11月初旬まで数羽で争っていました。

・11月6日、ムクノキの黒く熟した実に集まる渡ってきたばかりのシメ・アカハラ。そこに常連のキジバト・ヒヨドリたちも仲間入り。今年もムクノキ・レストランの開店です。

・11月8日、ツグミも胸をそらせて枝に止まって、「クイックイッ」と鳴いて、北からの使者の到着です。

しばらくは、ミズキ・ムクノキ・エノキ・アオキ・ムラサキシキブ・マユミなどの木の实を求めて、木から木へと移動する姿が見られるでしょう。木々はすっかり葉を落とし、寒さは増してきますが、野鳥たちに出会える楽しみは、冬こそおすすめです。双眼鏡片手に、静かに森を歩いてみませんか(瀬尾)。



ツグミ

木もれびの森の樹木(5)

今回の樹木はスギです。

スギはスギ科スギ属で常緑高木、学名はCryptomeria japonicaといい、日本特産の針葉樹です。

樹皮は赤褐色で縦に細長くはがれ、雌雄同株、4月に開花します、実は10月ごろ熟し緑色から褐色となり、葉は長さ0.4～1.2cmの鎌状針形でらせん状につきます。

地球上のスギ科ではアメリカ大陸のセコイア、中国原産のメタセコイア、コウヨウザン(広葉杉)等があります。

日本では漢字でスギは「杉」と書きますが、中国ではコウヨウザン「広葉杉」のことをいい、日本の杉の仲間を「柳杉」と呼び、日本特産のスギは「榧」と書くほうが望ましいということです。

スギはわが国では最も有用な木とされ、人工造林面積では最大です、建築材として重要な用材として使用され、樹皮はヒノキとともに神社やお寺の屋根を葺くのに使われてきました。

スギは地域により材質、品種が異なります。天竜杉、屋久杉、吉野杉、北山杉、秋田杉、立山杉等が有名です。

また、酒屋のシンボルの杉玉や古い葉はタブノキの葉や樹皮といっしょに粉末にして線香にします。

木もれびの森でも何か所かで杉林が見受けられます、また、ヒノキ、サワラとともに境界木としても植えられています(林)。



樹皮



葉



雄花



実

木もれびの森のきのこ(2)

10月19日 藤野公民館で、きのこの勉強会を指導しておられる、田中佳孝先生に来ていただきました。

植生調査チームメンバー(6名)と木もれびの森のきのこを観察して回りました。

田中先生には、前もってメンバーがキノコについては知識は素人であることを伝えておきました。

先生は、親しみやすく、わかりやすい言葉で説明して下さいました。



先生(右)と鑑定中

参加したメンバーも、きのこの名前を知りたい人、食べられるものか毒があるものなのかを知りたい人、綺麗なキノコを写真に収めたい人など、いろいろでした。

楽しみながらキノコの基礎知識を身につけるためには、名前を知る事を避けては通れないと思いました。

当日の先生の話:

きのこの判定は、食べられる・食べられない・毒がある・不明 等にわけられる。

基礎知識として身につけるには、本や図鑑を見る事。

近年は、きのこの食害が増加しているようです。やたらと口にしないことがいちばん大事な事ですとも話されました。

森の中で間違いやすい代表的なキノコに下記のキノコがあります。

クサウラベニタケ(有毒)とウラベニホテイシメジ(食用)は森でも見られるので気をつけたいものです。

食べられるキノコの中でも、食べ過ぎると下痢等の症状をおこす消化の悪いものがあります。古くなると食中毒を起こすもの、アルコールと一緒に食べると悪酔いや下痢の症状が現れるものなど、初めてのキノコを食するのは難しいと思いました。

木もれびの森にはナラタケとよばれる、食べて美味しいきのこもあります。

ナラタケには 傘の表面・ひだのつき方や柄につばがある、などの特徴があり判定のしやすいものもあります。

下の写真が森の中のナラタケです。大きさがまるで違いますがどちらもナラタケです。



切り株に出たもの



枯れ草の上に出たもの

みなさんに説明できる日がいつか来るといいなと考えています(野口)。